

この人 に 会いました

湯沢町文教施設整備委員会
教育分科会座長

生田 孝至 さん
(新潟大学副学長)

10月7日の第29回湯沢町PTA研究会で「湯沢町のめざす教育改革への期待」をテーマにご講演をいただいた生田孝至先生にお会いして、お話を伺いました。生田先生は新潟大学理事、副学長、教育学生支援機構長としてお忙しい中、湯沢町の教育改革にご協力をいただいております。



小学校の統合問題についてご意見をお聞かせください

子供達の成長過程において、集団で育っていくことが大原則であり、ある程度の規模の教育環境を保証し

てやるのが、我々の責務である。統合によって学校がなくなる地域は寂しいかも知れないが、それを乗り越えて子供達が勉強やスポーツを通じて学校が楽しくなり、大きな力を発揮してくれる。ば理解してもらえらると思う。グループができることで子供達が伸びて行くことから、専門家の間では25人以上の規模が必要であるという意見もある。

小中一貫教育導入についてのご意見をお聞かせください

小1プロブレム、10歳の壁、中1ギャップの解消というマイナス要因を乗り越えるだけでは小中一貫教育導入の意味は無い。

学力の向上が保証される必要がある。湯沢の教育は、どこに特色を持たせるか新しい挑戦に向けたカリキュラムを本気になって考えなければならぬ。中学生のアメリカ、マゲナへの派遣が行われているが、これはすごいことだ。この成果を受けて、小学校1年生から英語教育導入の意見もあるようだが、これを湯沢の教育の特色とすることもできると思う。

町民の皆様に見えては

問題解決能力は小中学校時代が大切であるという、教育の大きさを理解いただき、教育によって地域を活

かすという意識改革が必要であると思う。

インタビューを終えて

講演会に続き、湯沢の教育改革についての歯切れのよい、わかりやすいお話をいただき、最後に「教育立国、湯沢になつてほしい」という提言をいただき生田先生の湯沢の教育に対する情熱と期待をひしひしと感じました。

生田先生の講演を、多くの町民の皆様聞いていただけなかったことが残念でした。

広報常任委員会

委員 南雲 正

南雲 和夫



編集
後記

絆

「きずな」

1年間の行政効果を客観的に判断して、反省の上になつて今後の改善策に導くことにある事から、9月の決算議会は予算議会以上に重要であると言われるようになっていきます。

議会報を簡素化にとの一方で、より詳しく知っていただくためにと委員会でも毎回議論されます。結果的には後者となり、字数が多く見やすく解りやすいものとならず、根この改革が進んでいない現状が浮き彫りされています。

評価されるとしたら「議会開催のお知らせ」と「議員表決表」です。当たり前と思えば当たり前ではあります。全国的にも珍しく、県内では当議会だけです。

町広報との連携、FM放送、インターネット中継の活用等、工夫をこらし、これからも親しまれる議会広報活動に心がけていけたらと考えています。

議会広報も25年の歴史を重ね99号にこぎつきました。皆様のご意見をいただけたら幸いです。

広報委員 南雲 和夫

広報委員会
委員長 柿崎直治
副委員長 森下昌次

南雲和夫・南雲 正・
田村正幸・宮田眞理子

編集

湯沢町議会

広報常任委員会